

〔その他〕

岐阜県立看護大学図書館における看護職者の生涯学習支援

加藤 和英¹⁾ 井上 貴之²⁾ 村瀬 ひとみ²⁾
 杉山 真美子¹⁾ 長谷川 桂子³⁾ 香ノ木 隆臣⁴⁾
 普照 早苗⁵⁾ 田辺 満子⁶⁾ 黒江 ゆり子⁵⁾

Lifelong Learning Support for Nurses at the Library, Gifu College of Nursing

Kazuhide Kato¹⁾, Takayuki Inoue²⁾, Hitomi Murase²⁾,
 Mamiko Sugiyama¹⁾, Keiko Hasegawa³⁾, Takaomi Konoki⁴⁾,
 Sanae Fusho⁵⁾, Michiko Tanabe⁶⁾, and Yuriko Kuroe⁵⁾

I. はじめに

本学は、平成12年度の開学時より県民の健康と福祉の充実に貢献する看護職像を描きながら教育研究活動を続けてきた。また、近年の保健医療における人々のケアにかかわる要望は高度化しており、看護職は最新の技術や知識を身につけるだけでなく、豊かな人間性と確実な倫理的判断力が求められるようになってきている。これらにより、本学図書館の果たすべき役割は、看護学における高等教育と学術研究活動を支えるとともに、最新の知識と技術と倫理的判断力を必要とする看護職者に十分な情報提供のできる機能を発揮することであると言える。

そのため、本学図書館は、看護学科・看護学研究科における教育・研究活動を支える中核の施設として、また、岐阜県の看護の質向上をも目指して、基本計画のもとに整備をすすめてきた。この基本計画とは、第一に、高等教育機関に求められている学生の自律的課題探求能力の育成を図ること、第二に教員の教育・研究・実践活動をバックアップできる整備を行うこと、第三に図書館を一般開放することで学外者の生涯学習支援に寄与し、県下の看護の質の向上に貢献すること、そして第四に、本学の教育の理念や特色が十分反映されるよう整備を行うこ

とである。

本学図書館は県内初となる看護大学の図書館として、基本計画の第三に示されている図書館の一般開放について開学前より学外の看護職者から大きな期待を受けてきた。このことは、図書館を整備するにあたり開学前の平成10年9月～10月に実施した、看護職者を対象とした図書館利用にかかわるニーズ調査からも明らかにされている¹⁾。そこで本学図書館はこうした期待に応えるため、開学時より所蔵・導入する近隣の公共図書館では提供し得ない専門的な資料やデータベースを、生涯学習支援として学外看護職者へも提供すべきであると考えた。

開学当初は蔵書数も充分ではなく、限られた資料を学生間で融通し合うような状況であったが、学生の教育と教員の研究活動支援、及び大学完成年度に向けた資料整備を優先に考えながらも、まずは対象を看護職者に限定して一般開放を行い、そのサービスとして閲覧（データベース検索等を含む館内サービス）と複写を可能にした。その後、図書館の整備がすすむにつれ、平成15年度より段階的に看護職者への貸出サービスを開始し、平成18年度より文献検索講習会を開始するなど、サービスを拡大して看護職者の生涯学習支援の充実に努めている。

1) 岐阜県立看護大学 図書館 Library, Gifu College of Nursing

2) 前岐阜県立看護大学 図書館 Formerly Library, Gifu College of Nursing

3) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing in Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing

4) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

5) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

6) 岐阜県立看護大学 看護研究センター Nursing Collaboration Center, Gifu College of Nursing

る。また、図書館の整備状況を考慮しながら一般開放の範囲拡大を検討した結果、平成16年度より看護職者に限らず18歳以上であれば閲覧を可能にし、他大学や専門学校の看護学生をはじめ地域住民にも利用されるようになった。蔵書については、学生の学習や教員の研究活動などに役立つ看護・医学の専門書を中心とするとともに、看護職者の生涯学習に貢献できるよう看護の現場で有用な資料の整備にも努めている。

このように、看護職者に向けた積極的なサービスの展開は、本学図書館の大きな特色の一つと言える。本稿では、本学図書館の充実に向けて、教授会の下部組織である図書委員会と図書館司書が協働でこれまで取り組んできた活動のうち、看護職者の生涯学習支援に焦点をあて報告する。

II. 本学図書館の概要

本学図書館は、大学の教育と研究を支援するための整備をすすめ今日に至っている。平成16年には大学院看護学研究科修士課程の開設、及び平成18年には博士後期課程の開設と続き、専門性の極めて高い図書や諸外国の図書・雑誌などの充実、外国文献検索の支援が求められるようになり、本学における図書館の重要性はますます高まっている。平成21年3月末日現在で約7万6千冊の蔵書が収められており、そのなかで、看護・医学関係の専門書は約3万6千冊、一般図書は約4万冊を収蔵し、専門書のみならず教養図書の収集にも力を入れている。また、看護関連の専門雑誌を中心に、国内外の雑誌・定期刊行物を約400タイトル継続的に購入しているのも本学の大きな特色の一つである。

館内には検索用端末が10台設置しており、来館者は蔵書検索のほか、専門論文などの情報検索のためにインターネット上で公開されている各種データベースが利用できるように整備している。

1. 図書館の環境

図書館棟は本学北側駐車場に面し、図書館入り口は北側玄関から近く、学生・教職員にとっても、学外利用者にとっても利用しやすい位置にある。図書館棟は2階建て（図書館部分の総面積1,196㎡）であり、1階には、72席の閲覧スペースの他に開架書架・雑誌展示書架・ブラウジング・検索用端末・移動書架・カウンター・司

書室があり、利用者は書架の閲覧や文献検索を開放感のある空間の中で行うことができる。また2階には、可動式のテーブル型閲覧席（42席）のほか、AVコーナーや研修室（2室）などがあり、自主学習やグループ学習に活用されている。

開館時間は、大学院看護学研究科の学生も十分な活用ができるように、8:45～21:00（長期休業中10:00～20:00）とし、休館日は日曜日と祝日である。学外者の利用は、閲覧・複写が18歳以上、貸出が本学卒業者・修了者及び県内看護職者を対象にしている。県外看護職者には貸出を行っていないが、希望に応じて来館時受付用の利用証を発行し入館手続等が簡便になるようにしている。なお、ここでいう「県内」とは、岐阜県内に在住または在勤の意であり、「看護職者」とは、看護師・助産師・保健師・養護教諭を指す。

2. 図書館の運営

図書館は前述の基本計画のもと、図書委員会と図書館司書が協働で運営を行っている。図書委員会は図書館長と各講座から選ばれた教員によって組織され、年間の活動方針・計画を立てて図書館運営にあたっている。委員会の場には司書も加わり、教員と司書双方が意見を出し合い、予算編成から図書館サービスの実施に至るまで図書館運営全般について協議している。

3. 蔵書冊数と主要データベース

蔵書冊数の推移と利用可能な主要データベースは表1・2に示すとおりである。蔵書冊数は開学時の約1万7千冊から大きく増加しており、開学時に目標として掲げた10年間で6万冊の整備は既に達成したが、医療技術の進歩や保健・医療・福祉現場の変化に対応できるよう、引き続き最新の図書の購入に努めている。また平成16年度の大学院開設に伴う高度な専門書や現場の看護職者向けの図書が新たに必要となっており、より幅広い種類の図書の整備を行っているところである。購入雑誌のうち看護・医学系雑誌の種類は、和雑誌254誌、洋雑誌88誌である（平成21年3月末日現在）。データベースは学外者も利用することができる。

III. 看護職者への図書貸出サービス拡大の経緯

先に述べたように本県における看護の質の向上に寄与するという使命を有している本学は、県内看護職者の生

表1 蔵書統計

各年度3月末日現在

| 年度 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 開学 | | 大学院開設 | | | | | | | |
| 蔵書冊数 | 16,957 | 23,601 | 40,066 | 47,302 | 52,041 | 57,816 | 63,318 | 68,322 | 72,135 | 76,871 |
| うち看護学書 | 3,016 | 4,050 | 5,822 | 8,046 | 8,772 | 10,290 | 11,946 | 13,548 | 14,629 | 15,833 |
| うち医学書 | 4,289 | 6,064 | 10,632 | 12,255 | 13,398 | 14,892 | 16,270 | 18,338 | 19,394 | 20,835 |
| 購入雑誌種数 | 328 | 327 | 407 | 418 | 406 | 403 | 401 | 418 | 427 | 380 |
| うち和雑誌 | 224 | 224 | 301 | 310 | 299 | 296 | 293 | 306 | 312 | 292 |
| うち洋雑誌 | 104 | 103 | 106 | 108 | 107 | 107 | 108 | 112 | 115 | 88 |
| 視聴覚資料 | 311 | 676 | 781 | 894 | 1,068 | 1,162 | 1,227 | 1,318 | 1,352 | 1,429 |

表2 主要データベース（商用）

| データベース名 | 分野 |
|------------------------|--------|
| 医中誌 Web | 医学 |
| メディカルオンライン | 医学 |
| CINAHL with Fulltext | 看護学 |
| PsycINFO | 心理学 |
| Dissertations & Theses | 学位論文 |
| 朝日新聞記事検索「聞蔵」 | 新聞記事 |
| NII 学術コンテンツ・ポータル | 学術情報 |
| MathSciNet | 数学・統計学 |

涯学習支援として本学図書館を活用することができるように整備をすすめ、開学以来、段階的に看護職者へのサービスを拡大してきた。その経緯について、ここでは図書の貸出を中心に紹介する。

1. 図書貸出サービス拡大についての検討：平成12～14年度

平成12年度の開学より学外看護職者へは閲覧と複写サービスを実施してきた。複写は館内でのサービスのほか、所蔵する文献の複写・郵送サービスを行い、直接来館が難しい看護職者への支援としてきた。本学図書館（以下「当館」とする）の存在が周知されるにつれ学外からの利用者は年々増加し、平成14年度には延べ800人を超える利用があった。図書の貸出を希望する声もしばしば寄せられるようになり、当館の整備状況と学生の利用状況を勘案しながらの検討を開始した。なお、開学当初の開館時間は9:00～19:00（土日祝日は休館）であったが、図書館利用者の希望を反映させて平成14年度より開館の時刻を8:45に繰り上げた。

2. 岐阜県看護実践研究交流会の発足とサービス拡大の開始：平成15～16年度

平成15年には岐阜県看護実践研究交流会（以下「交流会」とする）が発足した。この交流会は、看護職者が主体的に自らの看護実践の改善・研究に取り組む力を高めることと、その体験を共有・交流することで看護の改革と看護サービスの質の向上を図ることを目的とした会

である²⁾。本学の看護研究センターと研究交流促進委員会が交流集会の実施や報告書の刊行等をサポートし、教員が会員の研究支援を行うなど本学との関わりも深い。当館では、当該交流会会員の図書活用等に関わる支援が生涯学習支援として重要であると考え、平成15年10月から交流会会員への図書貸出（3冊・2週間）を開始した。

また、平成16年3月には本学の第1期卒業者を送り出し、県内在住在勤の卒業者への生涯学習支援と県内就職支援の面から、貸出（3冊・2週間）を開始した。さらに、平成15年度より通常期に試行してきた土曜日開館（10:30～17:00）を、平成16年4月の大学院開設に合わせて通年実施するとともに、開館時間を延長し、平日・土曜日とも8:45～20:30とした。このことは本学学生のみならず、不規則勤務が常態である看護職者にとっても利便性の向上につながったと考えられる。

3. 図書貸出サービス拡大の充実と改善：平成17～18年度

県内看護職者への本格的な貸出を検討するにあたり、夏期休業中を利用した貸出試行期間を設け、貸出動向の調査を実施した。館内及び学生の実習先施設でPRを行い、平成17年8月1日から9月30日まで県内看護職者に対して交流会会員・県内卒業者と同じ条件で貸出を行ったところ、延べ178人、381冊の貸出があった。また、県内看護職者の来館目的や図書館への要望を把握するため、9月最終週に来館した県内看護職者を対象に図書館利用に関する質問紙調査を行った結果、貸出を希望する意見が複数寄せられ、その要望の高さをあらためて知ることとなった。その後、貸出試行期間の貸出動向を分析し、次年度からの貸出を開始することとその対象を決定した。

平成18年度は、前年度の検討をもとに、次のように

表3 来館目的（複数回答） (n=75)

| 目的 | 人数 | % |
|---------------|----|------|
| 本を読む | 27 | 36.0 |
| 本を借りる | 37 | 49.3 |
| 医中誌 Web を検索する | 13 | 17.3 |
| 雑誌を読む | 15 | 20.0 |
| 必要な文献をコピーする | 41 | 54.7 |

貸出を開始した。まず、4月には県外卒業者への貸出を開始するとともに、卒業者及び交流会会員の貸出上限を引き上げ5冊・2週間とし、6月には県内看護職者への貸出（3冊・2週間）を開始した。また、開館時間を4月から延長（20:30から21:00へ）した。

さらに10月には、県内看護職者の図書館利用状況を把握するため、来館した看護職者を対象に質問紙調査を実施した。10月16日から31日までにカウンターで入館時受付を行った看護職者に質問紙を配布し、そのうち75名から回答を得た。当館への来館目的を尋ねた結果は表3のとおりで、「本を借りる」（37名）が「必要な文献をコピーする」（41名）に次いで多く、貸出サービスが開始から半年で浸透していることを窺わせる結果であった。また、4月より開始した開館時間の延長を支持する回答は約7割に達し、看護職者にとっての夜間開館の重要性をあらためて認識した。

その他、この年から司書による看護職者向けの文献検索講習会を開始したが、これについては次節で詳述する。

4. 看護職者への支援の継続：平成19年度～現在

貸出サービスの開始以降、現場の司書は看護職者の貸出動向を把握し、看護職者向け図書の選書へ活かすよう努めてきた。学外からの利用者数及び看護職者への貸出冊数の推移は図1・2に示すとおりである。貸出冊数は年々増加する傾向がみられ、平成20年度においては学外からの利用者は年間で延べ4,933人となり、総貸出冊数の約29%にあたる9,438冊が学外者への貸出である。本学と同じ公立の看護系単科大学の図書館と比較しても、当館の学外者貸出冊数は多いことがわかる（表4）。一般的に図書館における貸出冊数は、貸出条件の他にも近隣の人口や交通アクセス、類似機関の有無によって大きく左右されるものであり、冊数の多寡が図書館の優劣を示すものではない。たとえば県内各地に看護学書の充実した図書館があれば、利用者は各館に分散することだろう。しかしながら現実的にそのような図書館は少ないこ

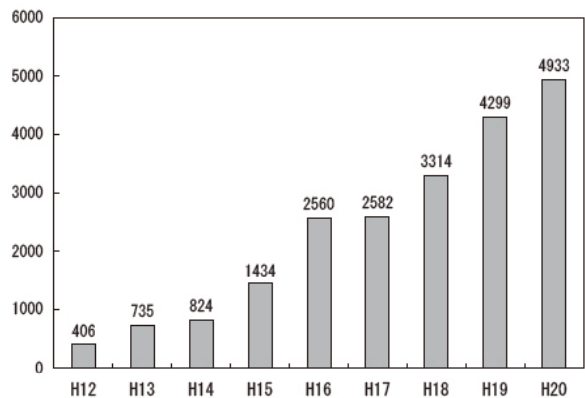


図1 学外利用者数（年度別）
※ 入館時にカウンターで受付を行った人数

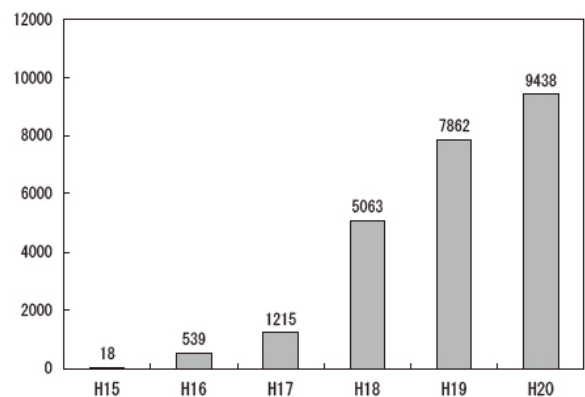


図2 学外者貸出冊数（年度別）

とから、表4にみられる数値は、当館が県内では看護職者から一館集中的に大きな期待を受けており、その期待にできる限り応えてきた結果であると考えられる。なお、学外者の利用登録者数は表5のとおりである。

IV. 文献検索に関する支援の開始

ここまで述べてきた貸出サービスは図書館が行う様々なサービスの一面でありすべてではない。すなわち、貸出や複写に至る前段階として、利用者が必要とする文献にたどりつけるよう検索の支援を行うことも図書館の大切な役割であると考えられる。そこで、文献検索の支援を充実させる取り組みを続けてきたので、次に紹介する。

1. 文献検索支援の二一ズ

前述の平成18年10月に当館が行った質問紙調査の結果（表3）において、来館目的に「医中誌 Web を検索する」と回答したのは17.3%（13名）と少数であった。これは、当館において医中誌 Web 等の文献検索が

表4 学外者貸出 他大学図書館との比較

| | 年度別学外者貸出冊数 | | | 貸出条件 |
|------|------------|-------|-------|--|
| | H18 | H19 | H20 | |
| 当館 | 5,063 | 7,862 | 9,438 | 県内在住・在勤の看護職（看護師・助産師・保健師・養護教諭） 卒業者:5冊・2週間 看護職:3冊・2週間 |
| A 大学 | 2,788 | 3,171 | 2,780 | 県内在住の18歳以上の者 県内の大学・事業所に通学・勤務する者 卒業者:5冊・3週間 その他:3冊・2週間 |
| B 大学 | 1,130 | 1,327 | 1,938 | 一般全般 5冊・2週間 |
| C 大学 | 1,154 | 1,297 | 1,391 | 看護・保健医療関係業務に従事し、他大学・専門学校に在学中でない者（介護福祉士を含む） ※ H21.4 より県外者へ貸出開始 卒業者:7冊（雑誌3冊）・2週間 その他:3冊・2週間 |
| D 大学 | 4,305 | 4,281 | 3,741 | 県内在住・在勤の18歳以上の者 県内の大学・短期大学・専門学校等に在学する者 3冊・2週間 |
| E 大学 | 7,563 | 7,118 | 6,419 | 県内在住者 5冊・2週間 |

※ 比較した大学は本学と同規模の公立看護系単科大学（平成21年3月末日現在）

表5 学外登録者数

| 区分 | 登録人数 | % |
|--------|-------|-------|
| 県内卒業生 | 208 | 5.6 |
| 県外卒業生 | 68 | 1.8 |
| 大学院修了者 | 27 | 0.7 |
| 県内看護職者 | 3,049 | 81.7 |
| 県外看護職者 | 292 | 7.8 |
| 交流会会員 | 89 | 2.4 |
| 合 計 | 3,733 | 100.0 |

平成21年3月末日現在

可能であることが十分に周知されていないこと、あるいは医中誌 Web 等が看護職者にとって文献検索の有用な手段として十分に知られていないことが関連しているのではないかと推測された。またこの調査では、具体的な要望として医中誌 Web 等の検索方法の講義を望む意見があった。図書館は多くの資料を備えるのと同時に、その資料がより有効に活用されるよう文献検索支援・PRを積極的に行う必要があると考えられた。

臨床現場における文献活用の必要性が強調される一方で、看護職者の多くが文献検索や入手に関して困難を感じていることは、複数の調査で報告されている。図書館が関わった調査を例にとれば、柴田ら³⁾は看護職者を対象とした調査で、その要因として病院図書室の資料の不十分さや大学図書館の利用経験の低さ、そして検索行動に対する苦手意識や時間の不足を挙げ、回答者の76.5%が検索について図書館司書からの説明を希望していることに着目している。また、阿部ら⁴⁾が大学卒業生に行った調査では、「看護関係情報の入手に便利なもの」という設問への回答として、75.0%が「身近な場所にある利用可能な医学・看護図書館」を、45.0%が「情報に関する相談ができるコンサルタントサービス」を、

30.0%が「情報検索・文献入手のための講習会」を挙げている。当館に来館する看護職者と直接接している司書の実感としても、データベース等の利用経験が少なく、文献検索の初歩の段階で困難を感じている看護職者は少なからずいるように思われる。

また、本学図書委員会においても、現場の看護職者の声として「文献検索の必要性は聞いているが、実際にどのようにすればいいのかわからない」「病院の図書室では十分な検索ができない」などの意見があることを把握していた。幸い当館では以前より学生に対する図書館ガイダンスの中で文献検索の説明を行っており、司書はそのノウハウを蓄積していたことから、それを応用して看護職者への文献検索講習会も実施できると考えた。

2. 文献検索講習会の取り組み

そこで当館では看護職者の生涯学習支援の取り組みの一つとして、平成18年度より看護職者対象の文献検索講習会を開始した（表6）。以下にその経緯と参加者から寄せられた意見を紹介する。

1) 文献検索講習会の開始

学外者に向けて文献検索講習会を開催したのは、平成18年度に交流会からの依頼という形で実施したものが最初であった。交流会会員対象の事業として、図書館棟2階の閲覧室に隣接するマルチメディア教室を利用して文献検索講習会を2回開催し、参加者は計23名であった。約80分の講習で、当館の利用案内、OPAC（オンライン蔵書目録）の活用法、医中誌 Web を中心としたデータベースの検索方法、文献入手方法等の説明を行った。文献検索の方法を説明し、そこから当館が所蔵する

表6 文献検索講習会開催実績

| 開催年度 | 開催月 | 対象者 | 実施形態 | 参加者数 |
|--------|-----|-------|-----------|------|
| H18 | 6月 | 交流会会員 | 交流会主催 | 16 |
| | 8月 | 交流会会員 | 交流会主催 | 7 |
| H19 | 6月 | 交流会会員 | 交流会・図書館共催 | 8 |
| | 7月 | 交流会会員 | 交流会・図書館共催 | 10 |
| | 11月 | 看護職者 | 図書館主催 | 7 |
| H20 | 6月 | 看護職者 | 図書館主催 | 24 |
| | 6月 | 養護教諭 | 依頼 | 21 |
| | 8月 | 看護職者 | 図書館主催 | 15 |
| | 10月 | 看護職者 | 図書館主催 | 6 |
| H21 | 6月 | 看護職者 | 図書館主催 | 7 |
| 9月末日現在 | 8月 | 養護教諭 | 図書館主催 | 2 |
| | 8月 | 養護教諭 | 依頼 | 6 |
| | 8月 | 養護教諭 | 依頼 | 10 |
| | 8月 | 看護師 | 依頼 | 2 |

資料の活用へとつなげるためには、図書館の専門職である司書が講習会を担当するのが適任と考え、初回以来当館司書が講師を務めている。

平成19年度には、交流会と当館との共催事業として前年に引き続き交流会会員を対象に文献検索講習会を2回開催し、参加者は計18名であった。また、当館独自の事業として広く看護職者を対象に文献検索講習会を開催し、参加者は7名であった。受講者の反応などから文献検索講習会に対して一定のニーズがあると判断し、当館の事業として継続して実施することとした。

2) 文献検索講習会の充実と改善

平成20年度は、当館主催の事業として、看護職者を対象にした文献検索講習会を3回開催した。当該講習会については事前に館内及びホームページで広報するとともに、学生の実習先施設に対して教員に開催案内の配布を依頼し、参加者は計45名であった。講習会終了時には参加者に対しアンケート調査を実施し、開催日時や講習内容についての意見を聞いた。その結果、講習内容については概ね好評を得られたが、改善を希望する意見や提案もあり、今後の講習会に向けての課題が把握された(表7・8)。

また、同じ看護職者でも看護師等とは異なるニーズを持つ養護教諭にとっても文献検索の必要性は高く、この年度には本学の大学院修了者を代表とする養護教諭グループからの依頼により、養護教諭向けの文献検索講習会を参加者21名で開催した。約80分の講習で、当館の利用案内、OPACの活用法、CiNiを中心としたデータベースの検索方法、文献入手方法等の説明を行った。

平成21年度は、前年度の文献検索講習会アンケート調査結果(表8)に、グループ別・個別の講習会を希望する意見が複数あったことから、従来の講習会(2回開催予定)に加え、少人数のグループを対象とした、日時や内容についての希望に応じるオーダーメイド形式の講習会を新たに開始した。9月までに1グループ(2名)から依頼があり、当館で講習会を実施した。この方法は依頼者にとって、希望するテーマに重点を置き説明を受けられる点、随時質問ができ、司書とのコミュニケーションをとりやすい点が大きな利点であると考えている。

前年度に依頼を受けて開催した養護教諭向けの文献検索講習会についても、新たに当館の事業として実施した。参加者は2名と少なかったものの、講習会の開催を知った2つの養護教諭グループから別の日時での開催依頼があり、それぞれに対して講習会を実施した。2回の参加者は計16名で、その大半は当館の利用経験がなく、当館が養護教諭をサービス対象としていることもあまり知られていなかったため、結果的に養護教諭のネットワークを通じての広報活動にもなった。なおいずれの講

表7 文献検索講習会アンケート (n=44)

| 設問・回答 | 人数 |
|-----------|----|
| 講習内容について | |
| ちょうどよい | 41 |
| 簡単すぎる | 1 |
| 難しい | 1 |
| 未回答 | 1 |
| 司書の説明について | |
| 分かりやすい | 28 |
| 普通 | 15 |
| 分かりにくい | 1 |

表8 文献検索講習会への意見（自由記述）

| (講習会を評価する意見) | 人数 |
|-----------------------------------|----|
| 検索方法がよくわかった／役に立った | 6 |
| モニターがあり、わかりやすかった | 2 |
| このような機会があり、うれしく思う | 1 |
| 実際にパソコンの操作ができてよかった | 1 |
| 難しいと感じるところもあったが、勉強になった | 1 |
| 初めて検索を行った。調べる内容が決まったら活用していきたい | 1 |
| インターネットで家から検索できるものがあると良かったので利用したい | 1 |
| (改善を希望する意見) | 人数 |
| 講師の話が早すぎてついていけないところがあった | 1 |
| 画面を一緒に操作しながら行うとわかりやすかったと思う | 1 |
| 資料の文字をもう少し大きくしてもらえるとありがたい | 1 |
| 仕事を終えて来るには、もう少し遅いとうれしい | 1 |
| (今後の講習会への提案) | 人数 |
| グループ別の講習会を実施してほしい | 2 |
| 文献の入手方法を教えてほしい | 2 |
| 研究中にうまく検索サイトが見つからないときに、個別指導をしてほしい | 1 |
| グループや研究課題別にデータや論文の検索を個別におしえてほしい | 1 |
| 無料のデータベース (CiNii 等) の検索方法を知りたい | 1 |
| 英文データベースの検索方法を知りたい | 1 |

習会も、検索演習の時間を増やす、Web ページの検索テクニックの説明を加えるなど、前年度からの改善を試みている。

V. 生涯学習支援における当館の果たす役割

看護職者の生涯学習支援は本学の使命の一つである。本学では平成 15 年度に設置された看護研究センターを中心として生涯学習支援に向けた多くの事業（共同研究、研究支援事業と交流会、看護実践研究指導事業、卒業者のための支援、生涯学習に関する相談など）を実施しているが、当館もその発展の一翼を担っていると考える。

当館ではこれまで述べてきたように、学生の教育環境と教員の学術研究活動を支える状況を考慮しつつ、看護職者の生涯学習支援の拡大を図り、現在に至っている。現状において、看護職者への貸出サービスは多く利用されており、当館は生涯学習支援に貢献していると考えることができる。引き続き看護の現場で有用な資料を整備し、貸出サービスを継続して提供できる環境づくりに努める必要がある。また、本学が位置する羽島市は愛知県と隣接しているため、当館を利用する愛知県の看護職者もいる。現在は「県立」の大学であることを意識して貸出を県内看護職者及び本学卒業生・修了者に限定している。県下のみならず広く地域の看護の質の向上を考えた場合、県外看護職者への貸出も行うことが求められる。ただし、学外者の利用があまりに増加することは学生の

利用に影響を与える可能性もあるため、今後の資料の整備状況や、県外看護職者からの要望を勘案しながら、慎重に検討していきたい。

また文献検索講習会については、検索経験の乏しい看護職者に対し講習会を実施することで、当館の資料や様々なサービスがより有効に活用され、看護職者の積極的な文献活用につながると考え、開催を拡大してきた。少人数であっても重ねて実施していくことが、看護職者の生涯学習支援の貢献になると考える。

これまでの講習会は、当館の利用経験やデータベース検索の経験が少ない者を想定し、初歩的な文献検索を中心テーマとしてきた。しかし実際に参加した受講者は想定したタイプだけでなく、パソコンの操作に不慣れな者から、基礎的な文献検索の知識を持ちさらにレベルの高い講習を望む者まで幅広いことがわかった。講習会をより効果的なものにするためには、受講者の幅広いニーズに対しきめ細やかに応えていけるような形が望ましい。平成 21 年度から実施しているグループ別の講習会は、その解決策の一つになり得ると考えている。「希望に応じて行います」と案内するだけでなく、こちらから具体例としてさまざまな講習会メニューを提供することも検討したい。グループ別講習会はまだ実施から間がなく、十分に周知されていないため、より一層の広報に努める必要がある。また、講習会という形式に限らず、来館者の求めに応じていつでも適切な文献検索支援や資料

提供ができるようカウンターサービスの向上に努めることも大切であると考え。来館する看護職者の中には、具体的な研究テーマを持ち、そのテーマに対しての検索支援・資料提供を望んでいる者がいる。こうした要望に応えるためには、講師を務める司書は日頃から看護文献に目を通し、看護研究のテーマとなっている事柄や検索キーワードについての知識を蓄え、看護大学図書館司書としての専門性をより高めなければならない。

これらの支援が広く行き渡ること、多くの看護職者が図書や雑誌をはじめとする文献に触れて自らの課題に気づき、課題解決にまた文献を利用する、というサイクルが生まれてくると考える。そして当館の利用をきっかけとして、看護職者が本学の推しすすめる様々な生涯学習支援事業に参加し、本学と看護実践現場との連携が深まることも期待している。当館の活動が看護職者の抱える課題解決の手助けとなり、看護の質の向上に貢献できるよう、今後も看護職者からの意見を聞き効果的な広報活動を行い、サービスの充実に取り組みたいと考える。また、臨床現場の動向を知るにも看護職者への広報を行うにも、学内教員の協力は不可欠である。引き続き図書委員会を通じて学内教員との協力体制を築いていきたい。

VI. おわりに

本学は平成22年4月より独立行政法人化を予定している。これを機に本学の組織・運営体制は大きく変わることになるが、そうした状況においても、当館が看護の質の向上のために果たすべき看護職者の生涯学習支援という役割はいささかも減じることはないと考え。これまで本稿で述べてきた取り組みを継続するとともに、法人化により運営の自由度が高まるという利点を活かして、新しい図書館サービスについても検討し取り組んでいきたい。

また、県財政の悪化や法人化に伴いこれまで以上に効率的な大学運営が求められ、それは当館も例外ではない。当館を整備していく上で十分な予算の確保は必須であるが、そのためには当館が学内の教育・研究支援を果たしているのももちろんのこと、一般開放を通して地域への貢献も果たしていることを学内外へ積極的にPRしていかなければならない。本稿がその一助となれば幸いである。

なお、本稿は平成18年度までの経緯については自己点検評価報告書（平成15～16年度、平成17～18年度）の記載事項を土台とし、平成19年度以降の活動状況等を加えてまとめたものである。

謝辞

岐阜県立看護大学図書館のサービス充実に尽力され、また本稿に対し適切な助言・指導をくださった歴代の図書館職員や図書館長、図書委員会の皆さまに深く感謝申し上げます。

文献

- 1) 兼松恵子, 松下光子, 石井康子, 他: 看護職の県立看護大学図書館利用にかかわるニーズ調査, 岐阜県立看護大学設立準備にかかわる調査結果報告書; 12-25, 岐阜県健康局看護大学設立準備課, 2000.
- 2) 岐阜県看護実践研究交流会: 岐阜県看護実践研究交流会会則, 2003.
- 3) 柴田恵子, 寺井直子, 山崎栄子: 熊本県北部及び熊本市における看護職の文献検索と利用調査, 看護と情報, 7; 70-79, 2000.
- 4) 阿部信一, 武藤桃子: 看護師の情報ニーズと情報探索行動 慈恵医大医学部看護学科平成12年度卒業生を対象にしたアンケート調査, 看護と情報, 11; 42-48, 2004.

(受稿日 平成21年11月12日)

(採用日 平成22年2月1日)